

ロタウイルスワクチン予防接種のお知らせ

ロタウイルス胃腸炎の重症化を予防するロタウイルスワクチン予防接種の定期接種が10月1日から始まります。
令和2年8月1日以降に生まれたお子さんが対象です。

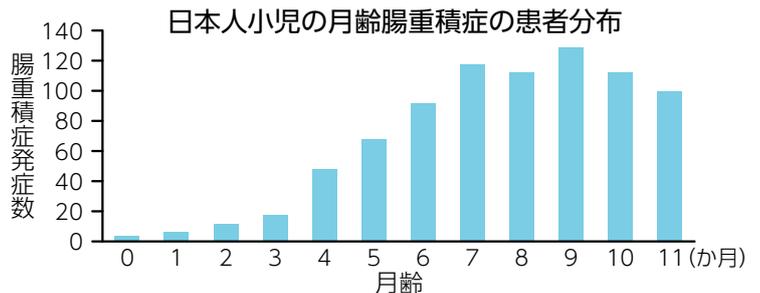
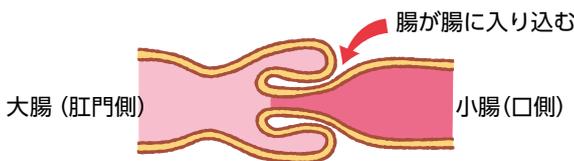
ロタウイルス胃腸炎は、感染力が非常に強く、激しい下痢や嘔吐を起こします。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は早い時期に完了しましょう。

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも飲むタイプの生ワクチンで、効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なるほか、1度接種すると途中で種類を変更できませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種してください。どちらのワクチンも、ロタウイルス胃腸炎の発症を7割から8割減らし、入院するような重症化を予防できます。

ワクチン名	ロタリックス	ロタテック
接種時期	出生6週0日後から出生24週0日後まで	出生6週0日後から出生32週0日後まで
	初回は出生14週6日後までに接種してください。	
接種回数	2回(27日以上あける)	3回(27日以上あける)
接種後、注意すること	接種後1、2週間は腸重積症(後述)の症状(泣いたり不機嫌になったりを繰り返す、嘔吐を繰り返す、ぐったりして顔色が悪くなる、血便が出る)に注意し、症状がひとつでもみられた時は、すぐに接種した医療機関を受診してください。	

■腸重積症について

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです(下図)。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こる病気で、生後4カ月ごろから月齢が上がるにつれて多くなります(下のグラフ)。早めに接種を開始し、完了することをお勧めします。



■ワクチンを接種する前に

赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをお勧めします。ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかに飲み込みが確認できれば、ワクチンの効果に問題はないので、再度接種する必要はありません。

■接種できない場合

明らかに発熱(通常37.5℃以上)している方や、重度の急性疾患にかかっている方、過去に同じワクチンで強いアレルギー反応が出た方は接種することができません。また、未治療の消化管障害のある方や、過去に腸重積症を起こした方、重症複合型免疫不全(SCID)のある方も接種できません。この他にも、接種の中止や延期をしたほうが良い場合がありますので、接種するときは、あらかじめ予診票に記入し受診して、医師と相談してください。

■町内のロタウイルスワクチン 予防接種実施医療機関

医療機関名(電話番号)	接種曜日	受付時間
町立別海病院(75-2311)	木曜日	午後0時30分から午後3時00分

●持ち物 母子手帳、保険証、診察券

問合せ/町民保健センター TEL75-0359

町の保健室

町の大腸がん検診の状況

町が実施した大腸がん検診を受診して、異常が認められた方の5人に3人は、がんやポリープが見つかっています。大腸がんは早期発見、早期治療をすれば95%以上の方が治癒(※)します。「たまたまだろう」「痔だろう」と自分で判断せず、自覚症状がなくても、必ず精密検査を受けてください。

※診察時からの5年相対生存率

【問合せ】町民保健センター TEL 75-0359 FAX 75-0337 Eメール hoken@betsukai.jp